学位被授与者氏名	曲　擎華（きょく　けいか）
論文題目	中国都市部の高齢化に伴う居宅サービスへのニーズの実態及び今後の展望－大連市を中心として日本の居宅サービスとの比較
論文審査結果の要旨	概念や理論に拠るのではなく、日本の高齢者福祉との比較という視点で研究が行われた。中国の高齢化には、第一に日本の高齢化の速度は 1980 年の 9%から 30 年程度で現在の水準に達しているが、中国も 2050 年に現在の日本の高齢化の水準に達し、速度は同様であること。第二に一人っ子政策による家族の縮小により、これまでのように家族や親族による介護は難しいこと。第三に都市部へベビーブーム世代人口が移動し、都市部の高齢化が進むとともに、農村部の介護を必要とする高齢者の子ども世代が不在であり、子ども世代が介護に戻ることは経済的困窮をもたらすこと等の日本の高齢者問題と多くの類似点が認められる。これらを根拠として、今後の中国の高齢化に伴う介護問題について、日本との比較により検討を加えている。中国の 65 歳以上人口が 2050 年には 3 億人を超え、現在の要介護高齢者の統計的数値は不明であるが、概ね 2 割程度が介護を必要とすると仮定すると、6 千万人程度が介護を必要する状態になると推測できるが、日本の介護サービス利用者は約 7 割が居宅サービス利用者である。この点からも、居宅サービスに着目して、今後の中国の介護サービスの整備方向を示したことは意義があるといえる。 中国の国内でも高齢化に伴う問題に関心が高まりつつあるものの、福祉政策に関する先行研究はまだ数が少ない中で、高齢者介護対策を家族の介護負担軽減のため、施設中心に政策を進めるべきだとする研究も認められる。これに対して、政府も第 11 次､12 次 5 ヶ年計画の中で、今後実現すべき小康社会と｢養老サービスの社会化｣という目標を設定し、在宅介護をサービスの中核に据える基本方針を示している。一方で、政府の 5 ヶ年計画に示されているのは項目と概略のみであり、詳細な分析ができないことや、統計的資料の入手困難性、さらには居宅サービス制度に関する資料が未整備で検討できないなど、資料の不足を否定できない。そのような条件の下で日本との比較という視点から、多様な世代に聞き取り調査を行い、「伝統的家族介護」から意識面で脱却できない現状を示し、啓発や情報提供の重要性など、居宅サービスに関する今後の課題を指摘したことは、有用な資料として意義を認めることができる。なお、都市部と農村部の生活基盤の違いにより一元的に論ずることができない面もあることや、介護する家族の意識等の調査が必要なこと等、今後の研究課題が残っており、さらなる研究の進展が期待できる。 平成 27 年 3 月 2 日に、北九州市立大学北方キャンパス 3 号館 1-110 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(人間関係学)として十分な内容であると判定した。